

(事後評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 29～令和 4 年度)

代表機関：大分大学（総括責任者：北野 正剛）

共同実施機関：大分工業高等専門学校、三和酒類株式会社、フンドーキン醤油株式会社、
三井住友建設株式会社

取組の概要

今までの女性研究者支援事業により「リーダー格の女性研究者育成」を中期目標に明記した。この目標達成のため、本事業は、地域の中核的な発酵企業 2 社、大手ゼネコン企業、高専を共同実施機関として、女性研究者をリーダーとした産学連携研究を展開する。産学共にまだまだ男社会である大分で、大学、高専と企業との協働により女性研究者が主役となった地域創生を例証することで、男性の潜在意識の改革につなげ、女性の上位職比率と研究・技術者比率の増加、職域拡大を目指す。さらに「ひとの創生」活動をソフト面で支援し、男女ともに意識改革を好循環させリーダー育成につなげるために、先進的なダイバーシティ活動を推進している大手企業の地域工場（住友化学グループ、キャノングループ）が協力機関として参画し、仕事と私事の統合・両立、男性の意識改革の手法、女性リーダー塾の共同開講など「地域での産学連携型ダイバーシティ推進の仕組み」を確立する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	s	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

代表機関のリーダーシップの下、大分地域の工業高等専門学校、地域で中核的役割を担う 2 つの発酵企業、地域に活動拠点を有する大手建設企業の 5 機関が連携し、男性中心の風土が残る中、女性研究者・技術者を取り巻く研究環境整備、女性研究者を研究リーダーとする「産学連携共同研究」支援を進めることにより男女共同参画意識を醸成した。研究リーダーとなり共同研究を主導した女性研究者・技術者が上位職へ昇進し、研究成果の特許出願、新たな商品開発等を行ったことは「女性研究者が主役となった地域創生の例証」となる成果であり、大分地域における産学連携型ダイバーシティ推進の仕組みを構築したことは評価できる。さらに、連携する 5 機関と大分県内 9 つの企業が協力機関として参画する「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」を創設し、地域の多くの企業が参加し情報交換を図る「異業種交流会」、女性社会人の学び直しを推進する「サファイア人財育成プロジェクト」を実施することにより、地域と連携したダイバーシティ推進を展開したことは評価できる。今後は、「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」を継続して活用し、大分地域における女性研究者・技術者の活躍を全面的に推進していくことを期待する。

- ・ **目標達成度**：代表機関は、女性研究者在職比率の目標は達成し、特に理工学部において女性教員比率及び女性教授比率を大きく上昇させており評価できる。また、共同実施機関は、女性研

究者の在職比率を上昇させ、女性の上位職登用数を着実に増加させ、全ての目標を達成しており評価できる。さらに、10件の「産学連携共同研究」を支援し、目標を達成したことは評価できる。

- **取組**：地域と連携したダイバーシティ推進を展開するため、「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」の構築、女性社会人の学び直しを推進する「サファイア人材育成プロジェクト」の創設、女性研究者を研究リーダーとする「産学連携共同研究」の支援を進めたことは高く評価できる。また、代表機関の理工学部において、全ての人事案件を女性限定公募とする「女性限定公募の申合せ」を制定し、女性教員の新たな採用や教授への昇進を進めたことは高く評価できる。
- **取組の成果**：地域におけるダイバーシティ推進のためのネットワークを構築し、女性研究者をリーダーとする産学連携共同研究の支援を通じて、女性研究者・技術者の昇進や研究成果の特許出願、新たな商品開発等の成果を挙げたことは高く評価できる。代表機関の理工学部において、女性教員比率が大幅に上昇し、学部初の女性教授が誕生したこと、また、共同実施機関の工業高等専門学校で女性教授が1名誕生したこと、発酵企業で伝統的に男性が活躍してきた現場へ女性技術者の配置が進んだことは「牽引型」にふさわしい成果として高く評価できる。
- **実施体制**：代表機関の学長のリーダーシップと共同実施機関の長のコミットメントにより、事業を強力で推進する体制を構築したことは評価できる。また、代表機関と共同実施機関が中心となり、地域の14機関が参画する「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」を創設したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：連携する5機関とも、実施期間終了後も一定の自主経費を確保し、取組を継続させる方針を明確にし、また、地域に貢献する女性人材の育成拠点となっている「おおいた連携ダイバーシティ推進会議」を継続設置させることを決定しており評価できる。今後も、代表機関が地域を牽引する高等教育研究機関として強いリーダーシップを発揮し、地域の企業との連携を深め、女性研究者・技術者の活躍促進を強力で進めていくことを期待する。